

	校訓	平成26年度学校教育目標
最終評価	自学 福祉 剛健	自ら学び、やさしさを持ち、たくましく生きる美保南っ子の育成

項目	めざす姿	重点実践目標	評価指標	経過達成状況	評価	次年度へ向けて
自ら学ぶ	聞く力、話す力を育て、互いに高め合う学習ができる	しっかり話が聞ける	・児童アンケートで肯定的回答が80%以上 ・教職員自己評価で肯定的回答が80%以上	・児童アンケート…87% ・教職員自己評価…84% 話が始まったら作業を中断して集中して聞こうとしたり、友だち同士で声をかけ合ったりと、意識化が図られてきている。	B ⁺	○「話す・聞く」や「高め合う学習」の内容が系統的な学校全体のものとしての共通理解が不十分な面がある。6年生でのめざす姿をもとに学年に応じた段階を設定し具体的な姿として明確にして取り組んでいきたい。 ○手段が目的化しないよう、何をめざしてその取組を行っていくのかを明確にしていきたい。 ○新学習指導要領で取り上げられる可能性のあるアクティブラーニングを志向した取組を行ってきたい。
		自分の思いを話せる	・児童アンケートで肯定的回答が80%以上 ・教職員自己評価で肯定的回答が80%以上	・児童アンケート…85% ・教職員自己評価…71% 自分の思いを話そうとする意欲は高まってきているが、個人差があり、自分の思いを十分に持つことができなかったり、発表に対して積極的になれなかったりする児童がまだいる。	B	
		高め合う学習ができる	・児童アンケートで肯定的回答が80%以上 ・教職員自己評価で肯定的回答が80%以上	・児童アンケート…83% ・教職員自己評価…71% 児童は高め合う学習ができていると言う認識が広がってきているが、教師からみるとその内容はあまり十分とはいえないという認識がまだある。指導法の工夫とともに児童を鍛えていくことが課題である。	B	
やさしさを持つ	相手のことを考え、安全で気持ちのよい生活ができる	落ち着いた廊下歩行ができる	・児童アンケートで肯定的回答が80%以上 ・教職員自己評価で肯定的回答が80%以上	・児童アンケート…85% ・教職員自己評価…62% 教師の指導と児童会や学年・学級の取組で児童の意識は高まってきている。しかし、教師の目から見て十分に満足できるという状態には今ひとつ至っていない。	B	○廊下歩行やもくもく掃除の取組に成果が見えてきているので、引き続き取り組んでいき、それが当たり前という状態をめざしていきたい。 ○児童玄関での朝のあいさつは向上してきているが、いつでもどこでもという状態にはまだなっていない。また、形として整ってきても本当の意味でのあいさつになっているのかという疑問もある。あいさつの質の向上も視野に入れて取組を続けたい。 ○今年度は児童会や学級学年の取組で成果が現れた面もある。特別活動の取組で、児童自身が自分たちの状態を分析し、取組を考えていくところまでさせたい。
		気持ちのよいあいさつができる	・児童アンケートで肯定的回答が80%以上 ・教職員自己評価で肯定的回答が80%以上	・児童アンケート…87% ・教職員自己評価…58% 自分から気持ちのよいあいさつができる児童や、相手のあいさつに気持ちよく返す児童が増えたことが児童の自己評価に現れている。教師の視点では“自分から”を重視したいので、その部分を伸ばしていくことが必要である。	B	
		次の人のためにスリッパを揃えることができる	・児童アンケートで肯定的回答が80%以上 ・教職員自己評価で肯定的回答が80%以上	・児童アンケート…88% ・教職員自己評価…80% 乱れていると自主的に直す児童が増えたり、大きく乱れていることがほとんどなくなるなど、児童の意識や行動力は高まってきている。	A	
たくましく生きる	人のためになる行いに気づき、実行できる	もくもく掃除ができる	・児童アンケートで肯定的回答が80%以上 ・教職員自己評価で肯定的回答が80%以上	・児童アンケート…88% ・教職員自己評価…64% 掃除の時刻をきちんと意識して行動したり、黙って掃除をしようとする意識が高まってきた。黙って掃除をすることについては掃除場所により多少差が見られる傾向もある。	B ⁺	
		進んで運動する意欲を高め、体力の向上に取り組むことができる	剛健タイムで思いっきり遊ぶことができる	・児童アンケートで肯定的回答が80%以上 ・教職員自己評価で肯定的回答が80%以上	・児童アンケート…93% ・教職員自己評価…100% 学級で遊びを決め、全員で遊ぶことができおり、剛健タイムには運動場や体育館に楽しそうな歓声があふれている。剛健タイムを楽しみにしている児童も極めて多い。	A
本物にする	できるようになったことを継続する	体育学習に全力で取り組むことができる	・児童アンケートで肯定的回答が80%以上 ・教職員自己評価で肯定的回答が80%以上	・児童アンケート…93% ・教職員自己評価…90% 児童は体育の学習に意欲的に取り組んでいるが、児童数が多いために一人一人の運動量をどう確保するか常に課題になっている。また、児童の体力や運動能力の個人差が大きいので、何らかの取組をする必要があると考えている。	A	
		下足箱のくつをそろえることができる	・児童アンケートで肯定的回答が80%以上 ・教職員自己評価で肯定的回答が80%以上	・児童アンケート…88% ・教職員自己評価…93% 下足箱の靴のほとんどが常にきちんとかかとを揃えてあり整っている。またそのことが当たり前という状態にも近づいており、本物に近づいてきていることに児童も自信を持ってきているようである。	A	
		5か条を守ることができる	・児童アンケートで肯定的回答が80%以上 ・教職員自己評価で肯定的回答が80%以上	・児童アンケート…82% ・教職員自己評価…88% 多くの児童が5か条を守ることが当たり前という状態に近づきつつある。しかし、忘れ物がなかなかなくなるらない児童や学習用具の整理が苦手な児童に対する指導を粘り強く行っていく必要がある。	B ⁺	
開かれた学校	学校の教育活動を積極的に発信する	腰骨を立てて、調息ができる	・児童アンケートで肯定的回答が80%以上 ・教職員自己評価で肯定的回答が80%以上	・児童アンケート…88% ・教職員自己評価…74% 今年度から新たに取り組んだ「立腰」であるが、児童にかなり浸透しつつある。継続して指導をし、当たり前という状態にしていきたい。	A	○当り前になりつつあることが増えてきている。取組をさらに続けたい。 ○調息での「立腰」ができてきているので、それ以外の場面でも取り入れていき、当たり前のこととして行えるようになっていきたい。
		HPIによる情報発信を増やす	・保護者アンケートで、学校のHPIによる情報発信に対する肯定的評価80%以上 ・基本的に課業日は毎日記事を更新する	・保護者アンケート…90% ・課業日の記事更新はほぼ毎日行った。 ・HPの運用は安定してきた。今後新しい展開も模索していきたい。	A	

※評価基準 S:十分達成(ほぼ100%) A:概ね達成(80%程度) B:変化のきざし(60%程度) C:まだ不十分(40%程度) D:目標、方策の見直し(30%以下)